

**製品名: SAMHD1 (リン酸化 Thr592) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05400**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000
分子量	72kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SAMHD1
別名	SAM domain and HD domain-containing protein 1 (EC 3.1.4.-) (Dendritic cell-derived IFNG-induced protein) (DCIP) (Monocyte protein 5) (MOP-5)
遺伝子 ID	25939.0
SwissProt ID	Q9Y3Z3
免疫原	ヒト SAMHD1 (Thr592) 周囲の合成リン酸化ペプチド

**背景**

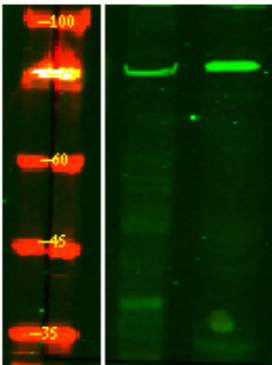
SAM および HD ドメイン含有デオキシヌクレオシド三リン酸トリホスホヒドロラーゼ 1 (SAMHD1) Homo sapiens この遺伝子は、

自然免疫応答の調節に関与している可能性がある。コードされているタンパク質はウイルス感染に反応して発現が上昇し、腫瘍壊死因子 $\alpha$  (TNF- $\alpha$ ) による炎症誘発反応の媒介に関与している可能性がある。この遺伝子の変異は、エカルディ・グティエール症候群と関連付けられている。[RefSeq 提供、2010年3月],機能: TNF- $\alpha$  シグナル伝達に対する炎症誘発反応の媒介に関与している可能性がある。誘導: インターフェロン $\gamma$  による。TNF- $\alpha$  処理肺線維芽細胞において発現が上昇する。類似性: HD ドメインを1つ含む。類似性: SAM (sterile alpha motif) ドメインを1つ含む。組織特異性: 心臓、骨格筋、脾臓、肝臓、小腸、胎盤、肺、末梢血白血球で発現する。脳および胸腺では発現が認められない。、

## 研究分野

微生物学

## 画像データ



LPS 処理または未処理の HeLa 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。